

第1回 グリーンLPガスの生産技術開発に向けた研究会 議事要旨

- 日時：2020年11月20日(金) 10:00~12:00
- 場所：日本LPガス協会 第1会議室
- 出席者：関根座長(早稲田大学教授)、橋爪委員(エネ庁 資源・燃料部、石油流通課企画官)、坂西委員(産業技術総合研究所)他 委員(9名)、オブザーバー他(7名)、事務局(3名)

議事概要

(1) カーボンニュートラルなLPガスの生産技術開発に向けた最新の技術・研究開発動向等に関する情報の共有化を本研究会で図るべく、今回は以下の3名よりプレゼンテーションが行われた。

- ・ (基調講演)
「非在来型触媒でエネルギーの環境と未来をつくる」 関根座長
→ LPガスを含めた今日までのエネルギー生成技術や新潮流(米国(ARPA-E)でのバイオ系燃料合成(Electrofuel)等の海外事例)紹介等
- ・ 「メタネーション関連技術および産総研の取り組み紹介」
産業技術総合研究所 望月主任研究員
→ メタネーション技術開発を巡るこれまでの歴史や取り組み、研究課題等
- ・ 「バイオ燃料開発を巡る日本LPガス協会のこれまでの動向」
日協 三木田企画グループリーダー

(2) 今後の研究会活動等についての議論・検討(要約)

- ・ LPガス合成技術としては、水素と一酸化炭素を結合させる過去からのフィッシャー・トロプシュ(FT)合成反応を始め、二酸化炭素と水素の合成で得られたエタノールから炭化水素を得る方法、或いはバイオマスからの生成等、現状でも様々な技術があることは知られている。
- ・ しかしこれらを実用化に向けて実証レベルまで高めて行くうえには、それぞれの要素に区分けしたうえで、実行可能性を検証して行くことが必要だ。
- ・ 加えて、技術的には良いシーズ(seeds)であっても、それを世間に広めて行く上には政策面でのインセンティブ作りが不可欠であり、行政からの対応が望まれる。
- ・ 当研究会では、グリーンLPガス技術開発に繋がる可能性を有した先端技術情報の共有化を図るため、引き続きシーズ出しを行っていくこととし、次回会合では大阪ガス、国際石油開発、千代田化工建設、岩谷産業の各社から講演して頂くこととなった。

(3) 次回会合：12月後半を予定。(事務局で調整中)

以上